

第2回日田市中小企業振興推進会議委員発言記録（概要）

日 時：令和3年8月24日（火）14：00～

場 所：日田市役所4階 庁議室

○委員長＊挨拶

- ・第1回の会議は5月24日に本日と同じようにズームでの開催であった。その際は、市のコロナ関連施策及び令和3年度の中小企業振興策について説明いただいた。また、中小企業実態調査の内容について意見交換を行った。
- ・本日は、計画目標の達成状況、特にKPIの未達成項目について、また、実態調査の結果について意見交換をしたい。

【議題1 計画目標の達成状況について】

資料「日田市中小企業振興計画の数値目標・重要業績評価指数（KPI）の達成状況（令和2年度分）」により、それぞれ基本方針ごとに事務局から説明。

1. 経営基盤の安定強化

○委員長

- ・市の融資制度の年間融資件数について、達成状況が25%程度で件数が大幅に減少したということは、日本政策金融公庫を中心に、民間金融機関や県の制度融資等の充実があり、他の融資制度に比べると市の融資制度は魅力がなかったということの裏づけである。県は、国の隙間を埋める制度を考えているので、市も融資制度において、国や県の隙間を埋めるような使いやすい制度を検討することも必要ではないかと、この数字を見て思う。
- ・物産展への出店やアンテナショップについては、人が集まるものについてはコロナの状況を考えると仕方がない。

○A委員

- ・コロナ禍での融資相談については、融資額の上限や条件面の中で、保証協会付きのコロナ制度資金に保証が多かったのは事実。現在は、保証協会付き無利子の融資が制度的に終わり、それに伴いまして日田市の新型コロナウイルス感染症緊急特別利子補給ということで、それを補完する部分で利子補給制度が出来ましたので、申込みを受けている状況。

○委員長

- ・実質無利子の制度が終わった今、日田市の利子補給の効果が見られ始めたということで、未達成の場合は現在の取り組みも丁寧に説明すると理解しやすい。

2. 中小企業の活用による地域内の経済循環の創出

○委員長

- ・家具・装備品製造業年間出荷額が落ち込んでいる。

○B委員

- ・一昨年、去年と比べると実態をあらわしている。

○委員長

- ・業界全体が実態を表しているとなると、コロナが落ちついてきたらリカバリー施策を考える必要が出てくるだろうという感じがする。
- ・それから官公需の関係。市外業者は特殊案件に限り入札参加を認めていく。行政が市外を除くとかいうのはなかなか難しいところがある。だから、地元のものについては地元の方々に発注できる機会をできるだけふやしていただく。また、できるだけ小さく分割して地元発注に努めていただくというようなことをお願いするしかない。

○事務局

- ・工事関係では、令和2年の豪雨災害の関係で、どうしても市内の建設業者だけでは対応が出来ないということがあった。実際、まだ令和2年の豪雨災害に加え、平成29年の災害復旧が残っているところがあり、建設業者についてはまだ、人手不足、事業所数不足があるというところで、どうしても市外発注はやむを得ないという状況になっている。

○委員長

- ・例えばどういう項目は、市内で100%対応出来て、どういう項目が、市内で対応出来てないのでこの項目は市外に発注しているというような項目を、建設工事にしても物品にしても、どういう物品が市内業者で対応出来ていないといったことを補足資料で出せるようであれば、丁寧に出してもらえると、委員の方々、それから事業者の方々にとっていいのかなと思う。

3. 経営の拡大及び新分野への進出の促進

○委員長

- ・日田市工業連合会の会員企業数というところで、目標値に対して実績値が218、なおかつ2019年と20年を比べると、企業数が5件減っている。

○事務局

- ・工業連合会の会員数減少について、脱退される企業の意向を伺うと、工業連合会に入っているメリッ的なものがなかなか見出せないという意見をいただいている。ここ数年、活動についても、皆様方の意見を取り入れながらという思いはあるものの、数年前から同じような取組の繰り返しというところがあり、こちらも考えていかなければと思っている。

○委員長

- ・会員企業数というよりは、心配したのは純減、例えば廃業で減ったのではないかと。

○事務局

- ・実際のところ脱退での減が多い。廃業をされたとか倒産によって会から脱会しますというようなことはない。今年度は1社コロナの関係で、会から脱退というのはあった。私たちがつかんでる限りでは、コロナ禍の中で倒産廃業はない。

○委員長

- ・年間観光入込客数ですが、現状どうしても県境をまたぐことは厳しい状況にはある。それで、状況のいいところは県内シフトに合わせてるということ。やはり、この期間は、県内客をいかに誘致するかと。今まではとにかく、県外客やインバウンドのほうに目が向いていたが、足元を

固めることが大事なので、県内のお客さんをどうやって集めていくかというようなことも考えていかないといけない。

4. 創業の促進

○委員長

- ・7ページは1番最後の開業資金の新規融資件数が、目標を達成していなかったということですが、日田市の創業支援事業計画に基づく創業者数とかビズサポの創業支援による目標値は達成しているの、要は資金的な需要がなかったと。もっと言えば、ほかの融資制度の一端かもしれないが、創業者自体は増えているので、日田市として創業資金の在り方を考えないといけないのかなと。ただ先ほど説明があったように、女性若者シニアの資金に流れたんだということが明らかであれば、その説明を資料に記述していただけるといい。

5. 人材の育成・確保と事業環境の整備

○C委員

- ・昨年度は、やはりコロナの関係もあり、前年度を下回る求人数ということで、受皿自体が少なかったということも数字にあらわれていると思う。今年度の今の状況について、求人数は、昨年度より少しは増加している状況にある。ちなみに昨年度、ハローワークに学校から報告のあった紹介就職を希望されてる生徒さんについては100%の就職ということで聞いているので、求人があれば、就職は可能ではないかと感じている。

○委員長

- ・市内の企業に対して、高校が現場を見に行く取り組みなどは、コロナの関係でとまっている状況か。

○事務局

- ・ひたを担う人材育成事業で、小中高生を対象として、市内企業をまず知っていただくという取組を外部委託にて実施しているところだが、昨年度はほぼ実施することができなかった。また、高校生対象に合同企業説明会を開催してきたが、コロナの影響で1か所にまとめて実施するということが困難で、今年については各高等学校で分散開催を行ったところである。

その他

○D委員

- ・市の制度融資の件数が少ないということは委員の方からお話があったように、政策公庫や国の支援を受けた「がんばろう！おおいた応援資金」など実質無利子の内容の融資が、据置を含めて非常に柔軟に対応していて、しかも融資までの期間が非常に短いと。そういった強力な施策が出ていたので、こういうのはやむを得ない部分があるのかなという印象。
- ・工業連合会会員企業減少ということで、これも今いろんな組織が会員の関係は御苦労されているのではないと思うが、会議所の場合は、コロナの施策がいろいろ出ている中、飲食店関係が御苦労されているのを幅広く支援させていただいたというのもあり、そういう切り口から、会員数をふやすという取組を行っている。

○E 委員

- ・実態調査の報告でもあったが、災害復旧で建設業への発注が出て、市内業者では対応出来ない分は若干ある。管工事等でいくと、専門の機器は専門業者に発注ということになるので、すみ分けはしていただきながら、取り組んでいる。建設業は今、いろんな業種の中でも、頑張っていて、景気はなかなかいいので、日頃恩恵を受けている分を、率先して地域の活性化に何か役立つようにやっ払いこうと取り組んでいる。
- ・次の承継がここで終わるだろう、後継者がいないという会社が何件かある。自社も次をどうしようかということ、今から考えなければいけない時期に来てるなという現状がある。

【議題2 実態調査の結果について】

「令和3年度日田市中小企業実態調査報告書」の内容を基に事務局から説明。

調査期間：令和3年6月28日から7月21日まで

調査方法：発送は郵送またはメール、回答はFAXまたはメール

調査件数：71社（回答48社、回答率67.6%）

景況感は全体的に悪化、今後の見通しはやや悪化する傾向がみられた。

○F 委員

- ・同友会でも景況調査を行っているが、売上は東日本震災以上の落ち込みで、営業利益としてはリーマンショック以上の落ち込みであり、建設業以外はほとんど回復してないということで、市の調査と大体同じ傾向であった。
- ・コロナ対応で、ITを使ったオンライン化の取り組みに関する人材不足、ITができる人が社内にはいない、もうITを使わないと生き残れないのではという話がよく出ている。先行き不透明な状況で、毎月、新規会員が来て、いろいろな相談を受けている状況になっているので、ビズサポ、商工会、会議所、JC等で協力し合いながら、継続した経営について学んでいければと思っている。

○D 委員

- ・会議所は、四半期に1回、3か月単位で調査を行っている。直近は4月から6月で市の調査のちょっと前になる。過去1年間の経営状況は、明らかに落ち込んでいることはやむを得ない。今年の経営状況の見通しの部分が直近の話だが、ここを見ると、やや好転するというか、持ち直しつつあるといった印象が全体の割合でも大きい。建設業を除いて、やはり持ち直しの印象が多いようだ。会議所の直近データでも、依然厳しいが、持ち直しの動きがあるというような反応が全般にあって、本当にそうなのかというところもあるが、結果的にはそういう部分が今回の市の調査と重なっている。

○委員長

- ・ここ1週間の情報から見ると、ラムダ株といった非常に感染力の強い変異株も出てきて、皆さんの期待感を本当にどこまで期待していいのかと非常に心配になってきている。

○A 委員

- ・景況感調査の調査期間については、四半期ごとで同じように4月から6月の調査ということになる。全208社から回答いただいた状況で、市の調査にあるとおり、建設業については、堅調

という状況である。その中で、特化すると林業関係で輸入材が減少したことにより木材の価格自体が通常の2倍ぐらいになったということで、その辺は特段の状況といえる。

- ・コロナ融資について、手持ち資金は、ある程度余裕が出来てきたのかなという状況の中で、2回目3回目のコロナ融資の相談もあるので、今後厳しくなるのかもしれないというような状況。いずれにしても、7月少し上向きで移ったのが、8月の場合、局面が変わってきたような状況。

○G委員

- ・観光協会にも所属しているので観光の話をする、8月頭にちょっと持ち直す気配があったが、水害とコロナの影響があり、また、天ヶ瀬温泉もまだ復旧しないということで、観光はしばらくめどが立たないというのが観光協会の意見。
- ・商店街のほうは、日田市のイベントは全て中止ということと、商店街施策も中止になっており、集客出来ないという状況になっている。日田市の商業は対面販売というのが非常に多いが、その辺が全く出来ない。現在は、この調査時点よりもはるかに悪くなっている。
- ・飲食業は壊滅的な状況を受けて、コロナが拡大すると飲食業に時短要請を出すという、このパターンが繰り返されて、本当に効果があるのかという疑問がある。時短要請協力金をいただいているが、それではなかなか維持していくのは難しいということで、借りたくないお金を借りているという状況もあると思う。

○H委員

- ・昨年の10月に開業をしたため、コロナの中で開業したような状況だったが、7月下旬から8月上旬はものすごい売上が伸びてきた。しかし、それも8月の10日までの話で、その後激減した。今は時短要請が出ているので来週から休業しようかと思っている。感染状況やコロナの終息を見ながら、スタッフの採用などに取り組んでいこうと考えている。
- ・景気調査のことで意見があったが、先日KCVで信金のDI実態調査の説明をされていたが、ただそのときとややトレンドが市の調査とは違う部分があるなど感じている。こういう調査のお互いのすり合わせみたいなこと、データを照会するということは可能なのか。

○事務局

- ・景況調査については四半期ごとに商工会議所さんと信用金庫さんが、実施している。その内容について四半期ごとに報告を受けて、市内の景気動向については把握しているところ。今回、実施した実態調査と景況調査についてのすり合わせは行っていないのが実態で、それぞれ出てきたタイミングがちょっと違うということと、信金さんと商工会議所さんはほぼ同じタイミングですので、市としては景気の把握については四半期ごとに行う調査を最優先に見させていただいている。この実態調査につきましては、振興推進計画に基づいて実施をさせていただくもので、企業側の現在置かれてる状況についての実態を把握するという調査と位置づけている。本来であれば同じタイミングで実施をして、比較するのが1番よいと思う。ただ、今回については、実施時期が6月から7月ということで、ちょうど狭間になってしまったが、何らかの形で、すり合わせをして、精度を高めることも必要かなと考えている。

○委員長

- ・木材がなかなか入ってこない、高騰している。こうした状況で、地元の状況はいかがなものか。

○B委員

- ・私の会社が1年前に、ソファの中身の材料をオール外材からオール国産材に切替えた。我々は国産家具を製作している以上、どこを切り取っても国産ということも伝えていかないといけないと思い、そういうふうになり替えた。そのときは、実際国産材のほうが外材より10%から20%高かった。それでも切り替えたのだが、そのうちウッドショックのニュースが出てき始めて、だんだん逆転してきた。外材が国産材より下がってきたので、それにつれて国産材もそこに水準合わせて今同じぐらいの価格になっている。供給という意味では、3か月から半年ぐらいまではお金を出しても手に入らないという時期だった。
- ・国産材については安定供給していただいていたんで、材料が足りないということにはなかった。
- ・ヤフーニュース等によると、「家具の値上げは便乗値上げ」といったニュースが出ている。なぜかという、今上昇しているのは針葉樹で、家具は広葉樹ナラとか、ウォールナットを使うから、家具の価格が上がっているのは便乗値上げだといった話。しかし、そんなことは全然なくて、針葉樹もたくさん使っているし、広葉樹もコンテナ不足とかで価格が上がってきているので、それをどう価格に転嫁するかという状況。同業の流れでいうと、今月ぐらいから売れる売れないはともかくとして、10%の値上げを各販売店に伝えている状況である。もう吸収が出来なくなっている、ウッドショックの今の実情は、そういった状況。

○委員長

- ・こういう状況下で、消費者はどういうふうにして生活を維持されてるか、要は、食材とかいろんな調達をどういうふうにされているか。

○I委員

- ・去年からコロナ禍で、企業とかお店が沈んでいる状態になっているが、私たち消費者からしてみると、もうちょっと活気がある日田であってほしいというのが消費者の気持ち。私自身はお店に行くときは、やはり時間を考えながら行くことにしている。どうしても夕方は多いから、時間をずらしていくほうがいいのかと思うが、皆さんが同じ立場にいるので、どうしても密になるときが多いようだ。
- ・それから、ネットショッピングや宅配業を利用しているので、もう余りお店に行かないという状況もあるようだ。

○委員長

- ・実態調査報告書にも、企業の取組の中で新たな販路開拓、既存商品やサービスの見直し、生産性向上への設備投資などがあがっているんで、部会の方で十分議論していただいて、国の施策と県の施策、その隙間を市のほうに、こんな事業をやってもらいたいというような申出ができると、この推進会議の一番の成果となるのではと思う。

○オブザーバー

- ・コロナ関連のいろいろな意見が出ているが、やはりワクチン接種は必要になってくる。少しずつ進んでいるが、8月17日現在で1回目の接種が終わったのが50.6%、2回目終わったのが今42%という数字になっている。また軽症の方の病床の確保ということで、宿泊療養施設、今、大分市内に5つホテルを確保しているが、今後は新たに日田市内にも1棟ホテルを借り上げて、宿泊療養施設をつくる準備を進めている。9月ぐらいから供用開始ができるのではないかと考えている。
- ・景況感についてもいろいろお話を聞き、非常に参考になった。今、木材が値上がり、ガソリン

も値上がりをし、県平均で160円を超えるような金額になっている。また10月から最低賃金が30円の値上がりという形で、かなり厳しい状況が続く局面だと考えている。今回8月20日から時短要請をさせていただいたが、この内容を含め、県の支援策等の説明会を開催する予定にしている。

【議題3 その他】

○事務局

- ・3回目の内容については、大分県との広域連携事業として実施している創造県大分クリエイティブ産業チャレンジ事業において、商工労政課で実施した二つの事業（ビジネスサポートセンター運営事業及び女性起業家創出促進事業）について、地方創生交付金の効果的な活用が図られているかという事業の検証をしていただくことになる。11月中旬に開催させていただきたい。

○委員長

- ・3回目の前に、今日の資料を専門部会に投げかけて、皆さんの意見を集約するのか。

○事務局

- ・9月15日に意見交換会の形で、コロナ第5波の状況や今回の資料を交えて話が出来たらと思っている。

○委員長

- ・その際は、国の支援制度及び県の支援制度、そして皆さんの意見をいただいた中で抜けているところ、皆さんの意見が強いところ、その辺の意見をいただくことが大事だろう。

以上

【閉会】 15:40終了